



東映株式会社

2025年3月期連結決算 説明資料 (2024/4~2025/3)



公式LINE【東映IR News】



公式X【東映公式ニュース】



2025年3月期決算（連結）

（百万円）	FY22	FY23	FY24	FY25	前期比較	
売上高	117,539	174,358	171,345	179,922	8,577	5.0%
売上原価	70,550	102,906	104,452	104,629	177	0.2%
販管費	29,178	35,113	37,550	40,137	2,587	6.9%
営業利益	17,810	36,339	29,342	35,155	5,813	19.8%
経常利益	23,303	40,172	35,317	39,992	4,675	13.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,977	15,025	13,971	15,722	1,751	12.5%

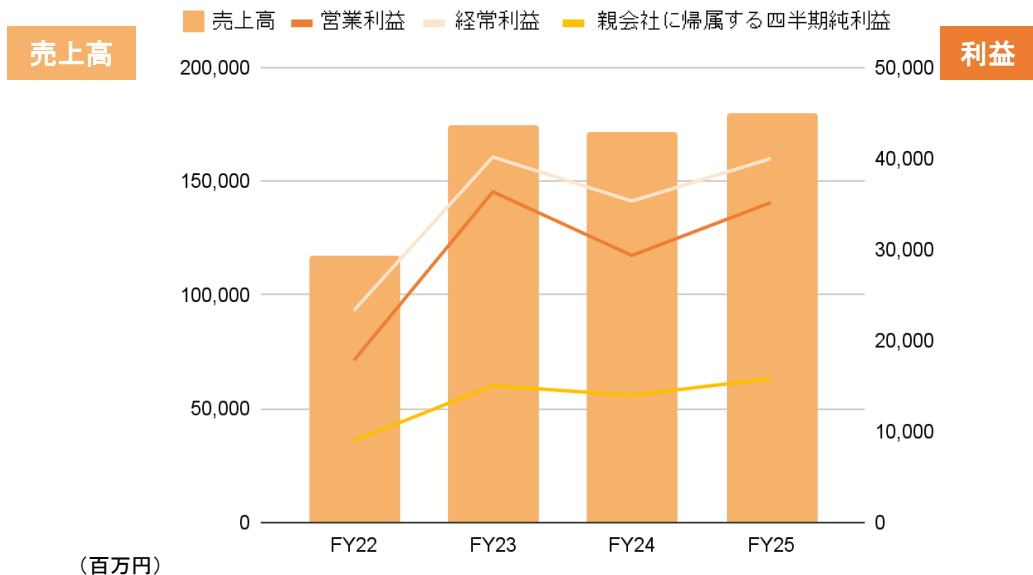
- 売上高 1,799億2千2百万円（前期比5.0%増）
- 営業利益 351億5千5百万円（前期比19.8%増）
- 経常利益 399億9千2百万円（前期比13.2%増）
- 親会社株主に帰属する純利益 157億2千2百万円（前期比12.5%増）

⇒2004年以降の同期比較で

売上高第1位、営業利益第2位、経常利益第2位、親会社株主に帰属する当期純利益第1位

※FY=会計年度：FY25は2024年4月～2025年3月の期間

※百万円未満を切り捨てて表示しております。



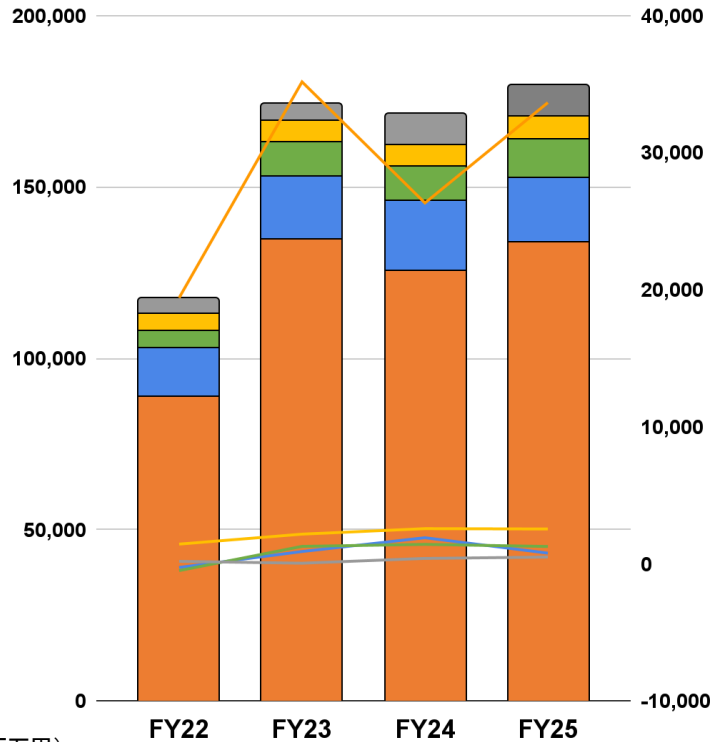
<分析>

●業績に大きな影響を与えるヒット映画等はなかったものの、アニメコンテンツを中心としたマルチユース展開が引き続き好調であったことで売上高は前期比85億7千7百万円（5.0%）の増収となった。

●人員増強やペースアップによる人件費の増加、映画村再開、東映本社の建て替えに伴う既存建物の早期償却による減価償却費の増加により販売管理費が25億8千7百万円（6.9%）増加したが、前期計上した劇場用映画『聖闘士星矢 The Beginning』の作品評価損を計上した前期に比して売上原価は1億7千7百万円の微増となり原価率は61.0%から58.2%に改善し、営業利益は58億1千3百万円（19.8%）の増益となった。

2025年3月期 セグメント別分析 (連結) 【全体】

売上高



利益

セグメント	サブセグメント	FY24	FY25	増減	比較増減	サブセグメント割合
映像関連事業	映画	9,860	4,137	▲5,723	▲58.0%	3.1%
	ドラマ	10,556	10,082	▲473	▲4.5%	7.5%
	コンテンツ	84,156	98,435	14,278	17.0%	73.4%
	その他	21,405	21,368	▲37	▲0.2%	15.9%
	売上高合計	125,980	134,024	8,044	6.4%	100.0%
	利益合計	26,333	33,655	7,322	27.8%	
興行関連事業	売上高合計	20,174	18,966	▲1,207	▲6.0%	100.0%
	利益合計	1,907	782	▲1,125	▲59.0%	
催事関連事業	催事	8,301	9,423	1,121	13.5%	84.1%
	映画村	1,783	1,779	▲4	▲0.2%	15.9%
	売上高合計	10,085	11,203	1,117	11.1%	100.0%
	利益合計	1,422	1,269	▲153	▲10.8%	
観光不動産関連事業	不動産賃貸	4,386	4,536	149	3.4%	66.3%
	ホテル	2,107	2,302	194	9.3%	33.7%
	売上高合計	6,494	6,838	343	5.3%	100.0%
	利益合計	2,569	2,542	▲27	▲1.1%	
建築内装関連事業	売上高合計	8,610	8,890	279	3.2%	100.0%
	利益合計	397	496	99	24.9%	
売上高合計		171,345	179,922	8,577	5.0%	
利益調整額		▲3,288	▲3,591	▲302		
利益合計		29,342	35,155	5,813	19.8%	

※百万円未満を切り捨てて表示しております。

(百万円)

2025年3月期 セグメント別分析 (連結) 【映像関連事業】

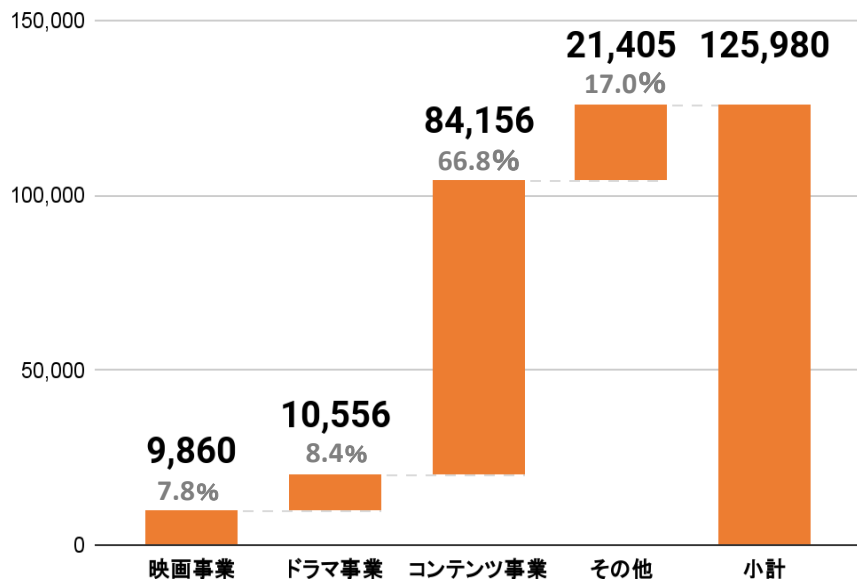
(百万円)		FY24	FY25	増減比率	
映像関連事業	売上高	125,980	134,024	8,044	6.4%
	利益	26,333	33,655	7,322	27.8%

●コンテンツ事業においてテレビ映画『ワンピース』『ドラゴンボール』シリーズの海外配信権販売、劇場用映画『THE FIRST SLAM DUNK』『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』の国内配信権販売、『ドラゴンボール』『ワンピース』のアニメ著作権が好調であり、これらが映画事業の減収を補った結果、売上高・利益ともに前期比増となった。

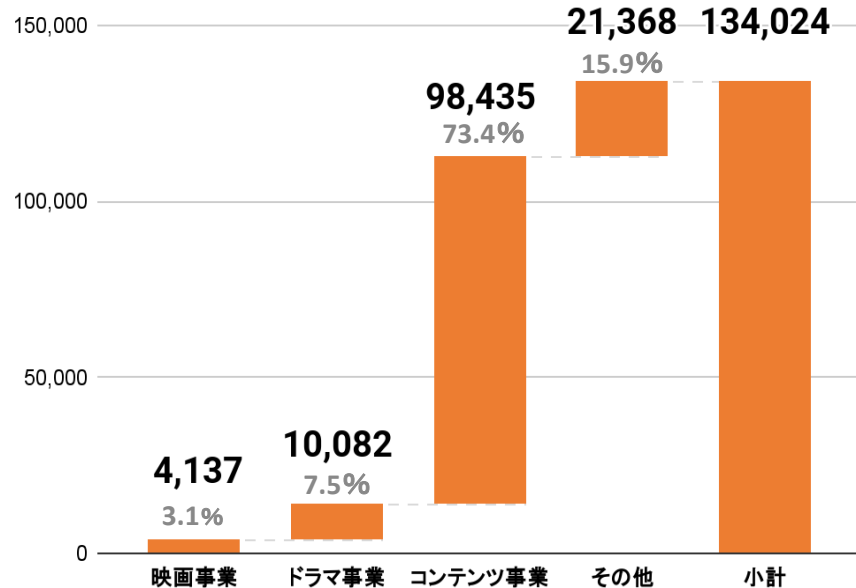
【サブセグメント別売上高】

●劇場用映画『聖闘士星矢The Beginning』の製作品評価損が計上されていた前期に比して、利益が増加した。

FY24



FY25

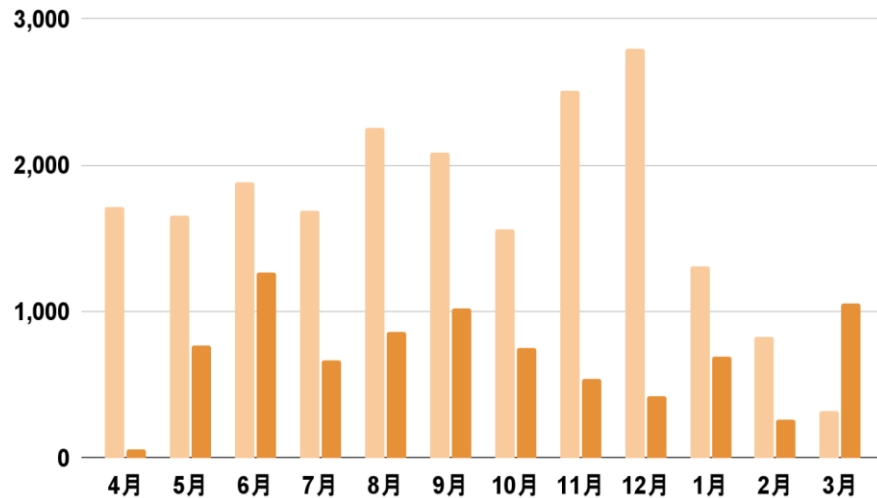


月間興行収入(億円)

	FY24	FY25	前年度比	FY25月別の主な稼働作品
4月	17.1	0.6	3.5%	『映画おしりたんていさらば愛しき相棒(おしり)よ』 『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』
5月	16.5	7.7	46.6%	『帰ってきた あぶない刑事』『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』再上映
6月	18.8	12.6	67.0%	『帰ってきた あぶない刑事』 『BELIEVE 日本バスケットを諦めなかった男たち』『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』再上映
7月	16.8	6.6	39.3%	『逃走中 THE MOVIE』『映画 仮面ライダーガッチャードザ・フューチャー・ディブレイク/爆上戦隊ブンブンジャー 劇場BOON! プロミス・ザ・サーキット』
8月	22.5	8.6	38.1%	『THE FIRST SLAM DUNK 復活上映』『映画 仮面ライダーガッチャードザ・フューチャー・ディブレイク/爆上戦隊ブンブンジャー 劇場BOON! プロミス・ザ・サーキット』
9月	20.8	10.2	49.0%	『わんだふるぷりきゅあ!ざ・むーびー!ドキドキゲームの世界で大冒険!』
10月	15.5	7.5	48.3%	『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎 真生版』『わんだふるぷりきゅあ!ざ・むーびー!ドキドキゲームの世界で大冒険!』『ポルテスVレガシー』
11月	25.0	5.4	21.4%	『十一人の脱軍』『わんだふるぷりきゅあ!ざ・むーびー!ドキドキゲームの世界で大冒険!』『リバイバル上映「楽園追放 -Impelled by 10th Anniversary-」』
12月	27.9	4.2	15.0%	『【推しの子】-The Final Act-』 『劇場版アイカツ!』メモリアルアンコール
1月	13.1	6.9	52.9%	『空町無頼』『【推しの子】-The Final Act-』
2月	8.3	2.6	31.3%	『空町無頼』『大きな玉ねぎの下で』 『結末、その先へ～侍たちの苦悩と希望～』
3月	3.2	10.6	327.8%	『35年目のラブレター』『映画おしりたんていスター・アンド・ムーン』
合計	205.5	83.5	40.6%	

月間興行収入

■ FY24 ■ FY25



FY25の主な稼働作品名	公開日	興収(億円)
帰ってきた あぶない刑事	2024/5/24	16.4
わんだふるぷりきゅあ!ざ・むーびー! ドキドキゲームの世界で大冒険!	2024/9/13	12.4
35年目のラブレター	2025/3/7	8.7 ※4月末時点では10.5億円

サブセグメント

【映画】 売上高 41億3千7百万円 (前期比58.0%減)

- 提携製作作品等34本を配給し、このうち、『帰ってきた あぶない刑事』、『わんだふるぷりきゅあ!ざ・むーびー! ドキドキ♥ゲームの世界で大冒険!』『35年目のラブレター』がヒット

マーケットを意識した映画企画開発

『35年目のラブレター』3/7 (金) 公開



2022年に7月映画編成部を設立しマーケットを意識した企画製作を推進。

新しい方針で企画製作された映画企画の第1作目となる。興行収入10億円 (4/30 時点) を超えるヒットとなった。

フランチャイズ作品が安定してヒット

『帰ってきた あぶない刑事』 興行収入16.4億円 (シリーズ8作品目)

『わんだふるぷりきゅあ!ざ・むーびー! ドキドキ♥ゲームの世界で大冒険!』 興行収入12.4億円 (シリーズ33作品目)



TOPIC

多様なアニメ・ラインナップ

2022年7月に設立した「映画企画部アニメ開発室」で企画開発した作品が2025年よりラインナップされる。また、同室は4月より「IP・アニメ開発部」(P21参考)に昇格し、今後、東映アニメーションや様々な外部アニメスタジオとの企画開発やIPのマルチチャネル展開を強化する。



サブセグメント

【ドラマ】売上高100億8千2百万円（前期比4.5%減）

●ドラマ製作

『科捜研の女 season24』『特捜9 season7』『相棒 season23』『君とゆきて咲く～新選組青春録～』『仮面ライダーガッチャード』『仮面ライダーガヴ』『爆上戦隊ブンブンジャー』『わんだふるぷりきゅあ!』『新☆暴れん坊将軍』『花のれん』を製作して、作品内容の充実と高視聴率の獲得、受注本数の確保に努めたが大型作品があった昨年に対して売上高は反動減となった。

●商品化権

特撮キャラクターの商品化権営業は、SNS配信やゲームとのコラボ等により消費者との接点拡大に努めた。

2025年1月～3月放送作品

2024年9月1日～ 『仮面ライダーガヴ』(テレビ朝日系)

2024年10月16日～ 『相棒 season23』(テレビ朝日系)

2025年2月16日～ 『ナンバーワン戦隊ゴジウウジャー』(テレビ朝日系)

2025年3月8日 『花のれん』(テレビ朝日系)



新規顧客の獲得

- ・『仮面ライダー』『スーパー戦隊』シリーズを中心に新規ライセンスとの取引拡大（前期比13%）
- ・ゲームとのコラボによるライセンス収入増（前期比26%増）

TOPIC

中国における『仮面ライダー』サイマル配信の開始

『仮面ライダーガヴ』第8話より中国でサイマル配信を開始

- ・従来は中国国内での審査のため日本の放送から半年遅れて配信されていたが大幅に制作スケジュールを見直したことで日本での放送と同タイミングでの配信が実現
- ・サイマル配信により海賊版を阻止
- ・ファンに作品が届きやすくなり、商品展開が拡大しつつある

周年企画

- 『スーパー戦隊』50周年
- 『仮面ライダークウガ』25周年



2025年に配信、放送、イベント、商品など多角的に展開

『東島丹三郎は仮面ライダーになりたい』アニメ化

「仮面ライダー」を愛しすぎるオトナたちによる
“本気の仮面ライダーごっこ”

柴田ヨクサル原作（『ハチワンダイバー』）

※2025年リリース予定



サブセグメント

【コンテンツ】 売上高 984億3千5百万円（前期比17.0%増）

国内外のアニメ版權や海外映像販売が好調に推移

●国内映像販売（配信・TV・ビデオグラム）

・ 配信権販売

シリーズ作品『【推しの子】』『セツの国』、
劇場用映画『THE FIRST SLAM DUNK』『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』
『十一人の賊軍』『【推しの子】- The Final Act -』が好調に推移

・ 放送権販売

新作映画公開に絡めた『あぶない刑事』シリーズ他、各種ライブラリ
作品が堅調

・ ビデオグラム

『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』『帰ってきたあぶない刑事』が売上高に貢献

●アニメ版權

・ 国内：『ドラゴンボール』シリーズ関連商品、
『ワンピース』カードゲーム等が好調

・ 海外：『ドラゴンボール Sparking! ZERO』、
『ワンピース』関連商品も好調

●海外販売

・ シリーズ作品『ドラゴンボール』『ワンピース』のほか、『仮面ライダー』『スーパー戦隊』
『ビーロボカブタック』が好調に稼働

【その他】 売上高213億6千8百万円（前期比0.2%減）

・ 『プリキュア』『ワンピース』の国内商品販売事業、イベント事業が売上高を牽引



『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』

TOPIC

Netflixリポート版『新幹線大爆破』が配信開始



Netflix映画『新幹線大爆破』Netflixにて世界独占配信

1975年に当社が公開した同名映画の再製作権をNetflixに許諾。
4/23(水)より全世界で独占配信開始。

日本・アメリカ・台湾 国際共同製作プロジェクト

映画『Dear Stranger / ディア・ストレンジャー』への参加

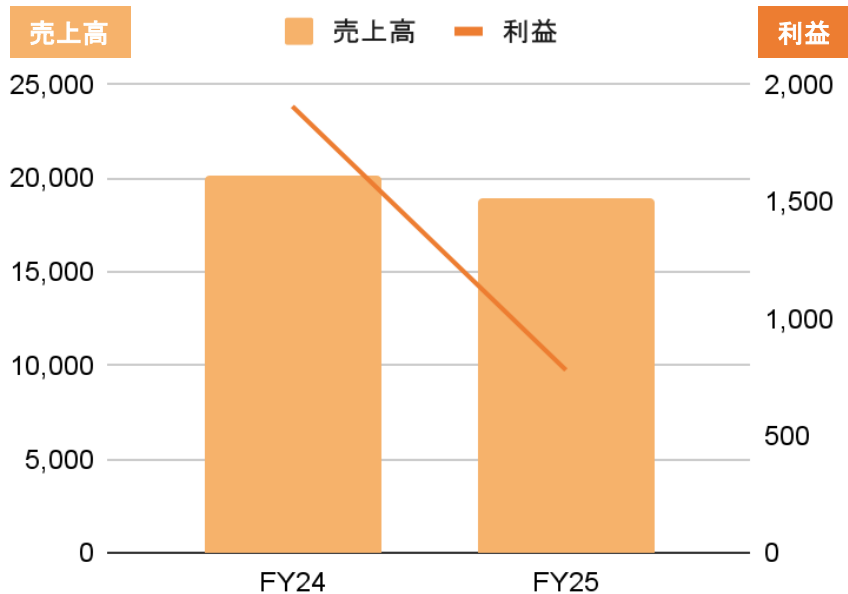
監督：真利子哲也

出演：西島秀俊、ガイ・ルンメイ

ニューヨークで暮らすアジア人夫婦をめぐるヒューマンサスペンス。
日本では2025年9月公開予定のほか、フランス他各国で公開予定。



(百万円)		FY24	FY25	増減比率	
興行関連事業	売上高	20,174	18,966	▲1,207	▲6.0%
	利益	1,907	782	▲1,125	▲59.0%



(百万円)

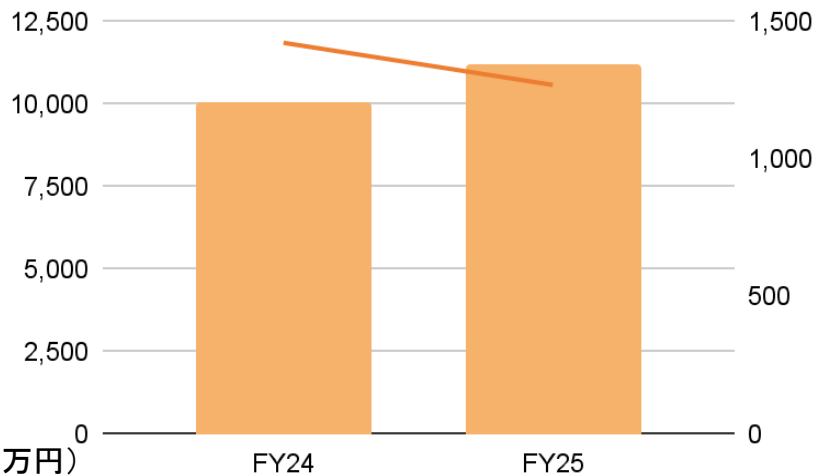
- 24サイト232スクリーン体制（東映絨直営館2スクリーン含む）で展開
- 株式会社ティ・ジョイによるシネマコンプレックス（共同経営・共同運営）の運営が中心
- ・2024年9月にT・ジョイエミテラス所沢が開業
- ・映画興行業界全体の興行収入が前期比で減少したことに伴い、売上高が減少
- ・『名探偵コナン 100万ドルの五稜星』『キングダム 大將軍の帰還』『ルックバック』『ラストマイル』『はたらく細胞』等が業績を牽引したものの減収減益
- ・「Screen X」等のラージフォーマットの積極的導入により劇場の高付加価値化と対抗館との差別化を図った（6月T・ジョイ京都、9月T・ジョイエミテラス所沢、12月横浜ブルク13）
- ・最低賃金上昇に伴う人件費の高騰やT・ジョイエミテラス所沢の開業費用の当期一括計上、資産除去債務等により減益幅が増加

(百万円)		FY24	FY25	増減比率	
催事関連事業	売上高	10,085	11,203	1,117	11.1%
	利益	1,422	1,269	▲153	▲10.8%

売上高

売上高 利益

利益



サブセグメント【東映太秦映画村】

売上高 17億7千9百万円 (前期比0.2%減)

●東映太秦映画村

リニューアルに伴い村内を一部閉鎖しているが、季節ごとに開催している「太秦江戸酒場」、和製ハロウィン「怪々YOKAI祭」などの施策により、動員数は前期比97%で着地。

サブセグメント【催事】

売上高 94億2千3百万円 (前期比13.5%増)

●イベント事業

・自社IPイベント：『王様戦隊キングオージャーファイナルライブツアー2024』『爆上戦隊ブンブンジャーショー』（Gロッソ）等の定番イベントが業績を牽引した一方、『ONE PIECE EMOTION』東京会場は利益の確保に苦戦。また、舞台『ライドカメンズ』の興行が振るわず利益率が減少。

・他社IPイベント：『北斗の拳40周年大原画展』などが利益貢献したものの、一部の催事の興行が利益を押し下げた。

●商品事業

・劇場商品販売：劇場映画の不調に伴い、前年と比較し大幅に減。

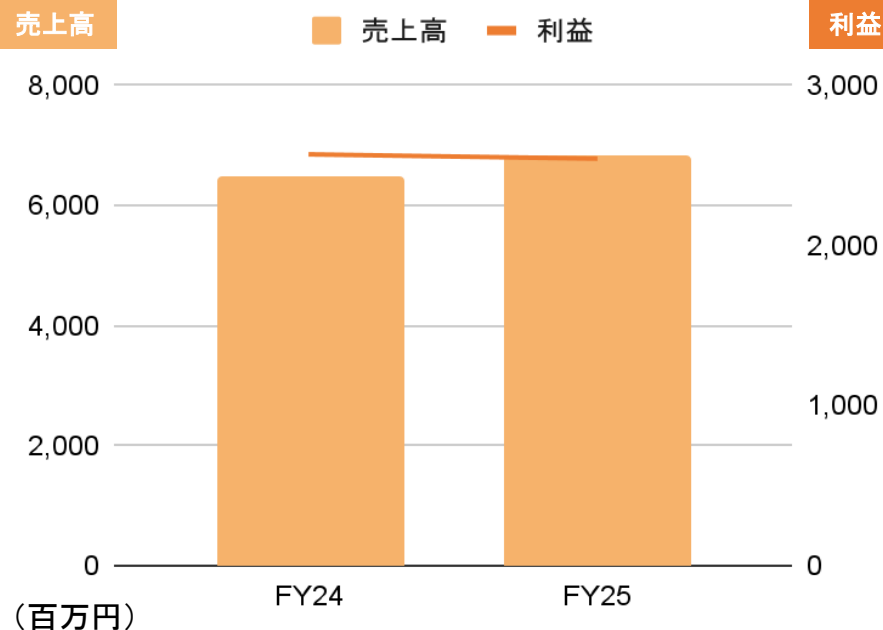
・オンラインストア：『帰ってきたあぶない刑事』『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』が業績を牽引し利益が前期比増となった。

・仮面ライダーストア：前半期の『仮面ライダーガッチャード』が伸び悩んだものの、後半期の『仮面ライダーガウ』に登場するキャラクター「ゴチゾウ」が10～30代女性の“推し消費”を喚起した。



「ゴチゾウ」

(百万円)		FY24	FY25	増減比率	
観光不動産 事業	売上高	6,494	6,838	343	5.3%
	利益	2,569	2,542	▲27	▲1.1%



サブセグメント

【不動産賃貸】 売上高 45億3千6百万円（前期比3.4%増）

- 渋谷・福岡・広島・仙台に所有する「東映プラザ」や「新宿三丁目イーストビル」等の複合商業施設、マンション等の賃貸運営が堅調に推移した。
- 修繕費、管理費が上昇し、仲介手数料その他の経費も増加。
- 東映太秦映画村再開に伴う建物等の早期償却により減価償却費が増加。

サブセグメント

【ホテル】 売上高 23億2百万円（前期比9.3%増）

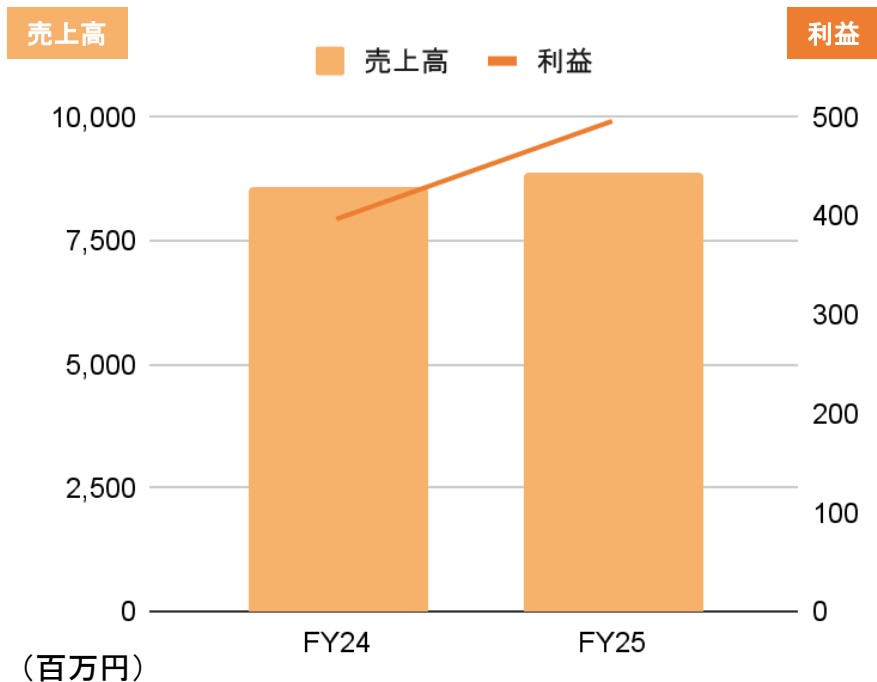
- インバウンドプロモーションを強化。
- 客単価の見直しにより、売上高・利益ともに過去最高を記録した。

2025年3月期 セグメント別分析 (連結) 【建築内装事業】

(百万円)		FY24	FY25	増減比率	
建築内装事業	売上高	8,610	8,890	279	3.2%
	利益	397	496	99	24.9%

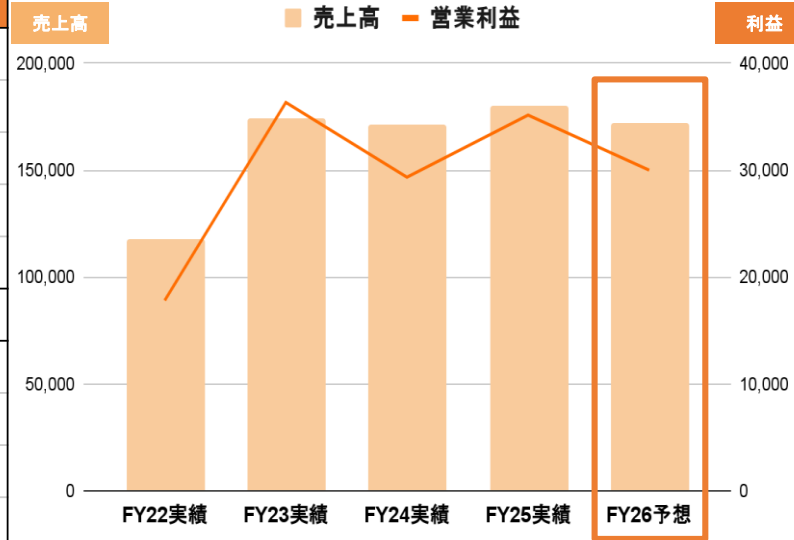
- シネマコンプレックス、老健施設、障がい者支援施設等の大型受注が増加。

- 建設費が高騰する中、利益の確保に努め利益が前期比増となった。



2026年3月期の予想

(百万円)		FY22実績	FY23実績	FY24実績	FY25実績	FY26予想	増減率
売上高	映像関連事業	89,257	135,179	125,980	134,024	125,900	▲6.1%
	興行関連事業	14,150	18,449	20,174	18,966	20,100	6.0%
	催事関連事業	4,823	10,015	10,085	11,203	11,300	0.9%
	観光不動産関連事業	5,053	5,967	6,494	6,838	6,700	▲2.0%
	建築内装関連事業	4,254	4,746	8,610	8,890	8,200	▲7.8%
	小計	117,539	174,358	171,345	179,922	172,200	▲4.3%
営業利益	映像関連事業	19,411	35,167	26,333	33,655	28,700	▲14.7%
	興行関連事業	▲262	900	1,907	782	900	14.9%
	催事関連事業	▲492	1,276	1,422	1,269	1,600	26.1%
	観光不動産関連事業	1,440	2,168	2,569	2,542	2,500	▲1.7%
	建築内装関連事業	183	48	397	496	200	▲59.8%
	利益調整額	▲2,469	▲3,222	▲3,288	▲3,591	▲3,900	
	小計	17,810	36,339	29,342	35,155	30,000	▲14.7%
経常利益		23,303	40,172	35,317	39,992	33,500	▲16.2%
親会社株主に帰属する当期純利益		8,977	15,025	13,971	15,722	14,500	▲7.8%



●戦略的な企画製作とラインナップ編成によって興行収入は堅調に推移するが、前年度好調に稼働したアニメ配信権販売、アニメ著作権事業などの反動減により減収減益の見込み。

●新たな撮影技術への投資や人的投資、「持続的な成長を支える経営基盤強化」のための不動産再開発等、長期的に安定した経営のための投資も積極的に実施。

●新規IPおよび既存IPのマルチユース展開を加速させ、収益の拡大を目指す。

(%表示は対前期増減率)

參考資料

東映グループのビジネスモデル

① 自ら企画製作し、

多様で魅力的な作品群を企画

- ・ 劇場映画 4,400作品以上
- ・ テレビ映画 39,000話以上
- ・ 配信映画 600話以上

オリジナル

原作もの



映像製作インフラ

- ・ 撮影からポストプロダクションまでのワンストップ体制

撮影



東京撮影所



京都撮影所

映像研究



ツクバ研究所

ポストプロ



東映ラボ・テック

アニメ



大泉スタジオ

② マルチユース展開

- ・ 劇場からテレビ、ネット配信までマルチチャンネルをカバー

配給

DVD Blu-ray

興行

商品化

テレビ放送

書籍化

配信

ゲーム化

イベント化

舞台化

海外展開



ティ・ジョイ



東映
オンラインストア



東映特撮
YouTube Official

③ 作品をフランチャイズ化することで接点を増加

IPが生み出す収益の最大化を目指す

収益 最大化

IP認知度向上
ファン化等

利益の積重ね

企画



製作



マルチ
ユース



利益の積重ね

企画



製作



マルチ
ユース



IP

接点
増加

東映グループの主な取り組み

- マテリアリティの特定と価値創造プロセスの策定
- 人権尊重への取り組み
- 「IP・アニメ開発部」「国際事業部門」の新設
- 東映太秦映画村第1期リニューアル
- 長期保有株主優待「東映東京撮影所見学ツアー」の実施

「愛される『ものがたり』を全世界に」という東映グループの使命のもと、東映グループ中長期VISION「To the World, To the Future-『ものがたり』で世界を彩る会社へ-」の実現に向けたマテリアリティ（重要課題）を策定致しました（2025年1月22日開催取締役会決議）。
目指す姿の実現に向けて、マテリアリティに対する重点施策を経営計画等に反映し、取り組みを進めます。

【マテリアリティ特定作業の流れ】

④重要性評価を踏まえたマテリアリティ特定、マテリアリティごとの関係整理

インタビュー・アンケートの結果をもとにテーマごとの重要性を集計し、マテリアリティごとの関係性などを整理しながら、最終的なマテリアリティを特定

グローバルリスク

SDGs

ESG格付け項目

ESG開示基準

ロングリスト

ショートリスト

マテリアリティ

① 社会全体の課題から、当社の活動に影響を与える約200件のテーマを選定

② 同業他社のマテリアリティや当社グループの業種においてグローバルに求められている評価基準なども加味しながら、さらに絞り込み

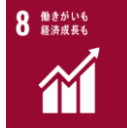
③マテリアリティ候補となるテーマに対する“重要性評価”

当社取締役へのインタビューおよびアンケートを通じ重要性を評価
当社の企業価値向上に大きな影響を与えるテーマと考えるテーマを優先度が高い順に取締役各者5つずつ選定

【マテリアリティ】

【創出を目指す価値】

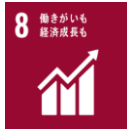
愛される『ものがたり』をつくり、届け続ける



【価値を生み出す資本】

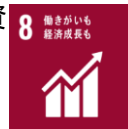
クリエイティビティを発揮するための人的投資

- ・多様な人材の登用と活躍
- ・安心して働ける職場環境の構築



グローバル展開を目指したIP創出力の増強

- ・東京撮影所・京都撮影所・アニメーション制作スタジオ等の拡充
- ・先端映像テクノロジー、撮影設備技術への投資



国内外パートナーとの連携強化

- ・海外ネットワークの構築
- ・イベント、マーチャンダイジングへの展開促進
- ・データドリブン/マーケティングの強化



【企業価値創出を支える基盤】

知的財産の保護と活用

- ・ライブラリー、保有IPの活用
- ・海賊版対応と法務機能の強化
- ・映像文化の継承



サステナビリティ経営の高度化

- ・法令順守の徹底、ガバナンスの高度化
- ・情報セキュリティの強化
- ・気候変動への適応



マテリアリティの特定と価値創造プロセスの策定

【価値創造プロセス】

価値創造プロセスを循環させ続けることで、当社グループの持続的な企業価値向上を目指し、社会の持続的な発展に貢献してまいります。

愛される『ものがたり』を全世界に

企業価値の向上

2033年数値目標：売上構成比率海外50%、営業利益250~400億円、ROE8%以上

社会価値の向上

『ものがたり』で世界の人々の心を彩り、持続可能な社会づくりに貢献

Outcomes

Inputs

Business Activities

Outputs

①つくる力

- ・人気シリーズを含む多様で魅力的な作品群を生み出してきた企画製作力
- IPプロデュース人材
- 国内外企業やクリエイターとのネットワーク
- 先端的な映像制作技術

- ・本邦唯一の映像製作インフラ（撮影からポストプロダクションまでのワンストップ体制）
- 東京撮影所、京都撮影所、アニメーションスタジオ、東映ラボ・テック、トークン研究所

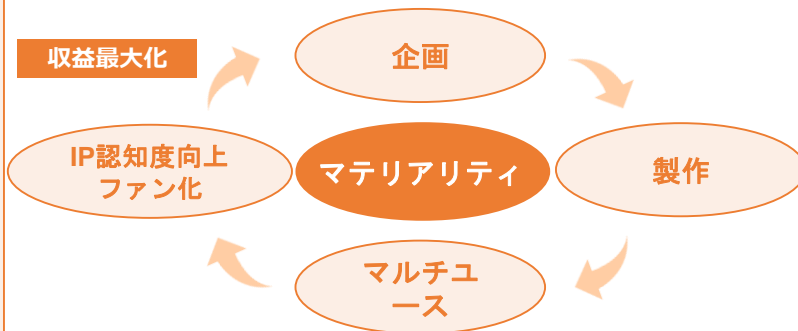
②拡げる力

- ・IPホルダーとしてのマルチユース展開力
- 豊富なライブラリ
- 営業・マーケティング人材
- 国内外企業とのパートナーシップ
- 全国展開の劇場チェーンやテーマパーク

③支える力

- ・ボラティリティの高い映像製作を継続的に支える基盤
- 多角的な事業展開（イベント事業や不動産事業等）
- 安定した財務資本

企画～マルチユース展開のサイクルを通じてIPとの接点を増大
コンテンツの認知度向上・ファン化等を通じて収益を最大化



マテリアリティ

- ①愛される『ものがたり』をつくり、届け続ける
- ②クリエイティビティを発揮するための人的投資
- ③グローバル展開を目指したIP創出力の増強
- ④国内外パートナーとの連携強化
- ⑤知的財産の保護と活用
- ⑥サステナビリティ経営の高度化

売上高（2025年3月期）

映像関連事業	1,340億円
興行関連事業	189億円
催事関連事業	112億円
観光不動産関連事業	68億円
建築内装関連事業	88億円

愛される『ものがたり』

劇場映画	4,400作品以上
テレビ映画	39,000話以上
配信映画	600話以上

■東映グループ人権方針（2024年6月1日制定）

東映グループは「愛される『ものがたり』を全世界に」を使命として掲げております。

この先も世界と未来を彩る多様な「ものがたり」を生み出し続けていくために、東映グループの事業活動に関わる全てのステークホルダーの人権が尊重されなければならないことを、東映グループの全ての役員・従業員が理解・認識するとともに、東映コンプライアンス指針をはじめとした東映グループの事業活動に関するあらゆる規範等における人権に関する考え方を明確にすることを目的として、「東映グループ人権方針」を定めております。

人権尊重へのコミットメント

東映グループは、「愛される『ものがたり』を全世界に」を使命に掲げる企業体として、東映グループで働く人々はもとより、「ものがたり」を作る人々、届ける人々、さらには受け取る人々など、東映グループのサプライチェーン全体におけるあらゆる人権を尊重し、彩り溢れる社会の実現に貢献します。

国際規範

東映グループは、あらゆる事業活動において、「国際人権章典」および「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」などの人権に関する国際規範を支持・尊重し、国際連合の「ビジネスと人権に関する指導原則」に則って、人権尊重の取組みを推進してまいります。

適用範囲

本方針は、東映グループの全ての役員・従業員に適用されます。また、東映グループの事業活動に関わる全ての取引先に対しても、本方針を理解し、遵守していただくよう働きかけます。

ガバナンス

本方針に基づく取組みは、代表取締役社長を最高責任者とするサステナビリティ委員会が統括し、本方針に則った人権尊重の取組みを推進してまいります。

人権デュー・ディリジェンス

東映グループは、事業活動による人権への負の影響を特定し、その防止・軽減を図るための仕組みを構築してまいります。

是正・救済

当社では、「東映グループホットライン」を整備しております。東映グループの事業活動により人権への負の影響が明らかになった場合、適切な手段を通じて救済および再発防止に努め、その是正に取り組んでまいります。

教育

東映グループは、本方針が全ての事業活動に組み込まれ、効果的に実行されるよう、東映グループの全ての役員・従業員に対して周知し、人権を尊重する企業風土を醸成してまいります。

情報開示・対話

東映グループにおける人権尊重の取組みについて、当社コーポレートサイト等において適宜開示してまいります。また、社内外のステークホルダー等との対話や協議を通じて、人権尊重の取組みを推進してまいります。

■ 2025ハラスメントゼロ宣言 (2025年4月1日宣言)

東映グループは、「クリエイティビティを発揮するための人的投資」を最重要課題の一つとして位置づけ、全ての人員の尊厳を守り、安全に、安心して働くことのできる職場環境の構築に取り組んでおります。こうした職場環境のさらなる実現のためには、いかなるハラスメントも容認せず、その防止に向けてより強固な対策を講じることが必要です。そこで、東映グループの全ての役員・従業員と作品に携わる全てのスタッフ、キャスト並びに取引先の皆様に向けて「2025年はあらゆるハラスメント行為を撲滅する」ことを宣言します。

ハラスメントゼロの実現に向け、右記三点の施策を柱として、従来から行ってまいりました取り組みを一層強化します。

防止および 対応体制の強化

東映グループ内の連携を強化し、ハラスメントおよびその予兆となる事案への対応を迅速かつ公正に行います。
また、社外の専門機関とも連携し、より効果的な対応を図ります。

教育・研修の推進

東映グループの全ての役員・従業員および制作スタッフを対象にハラスメントに関する教育・研修を義務化し、防止策の定着を図ります。不参加や不誠実な態度には厳しく対処します。

職場環境の改善と 監視体制の強化

定期的なヒアリングを実施し、職場環境の改善を推進します。また、相談窓口の周知を徹底することや、各事業所のハラスメント担当員の一層の意識改革を促すことで、監視体制の強化を図ります。

2025年、東映グループではハラスメント行為の撲滅に向けて、断固たる決意をもって行動してまいります。

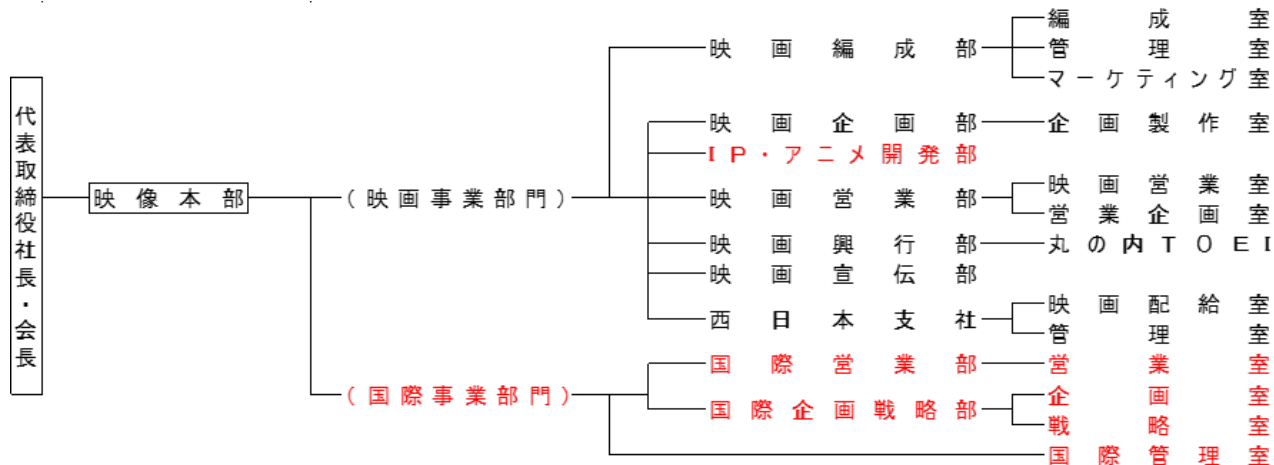
①「IP・アニメ開発部」の新設

昨今のアニメーション需要を受け、当社におけるアニメーション戦略を強化するため「映画企画部アニメ開発室」を「IP・アニメ開発部」に昇格させました。

②「国際事業部門」の新設

中長期ビジョン「TOEI NEW WAVE 2033」で示した重点施策「グローバル展開へのチャレンジ」を加速させるため、コンテンツ事業部門内の国際営業部を「国際事業部門」に昇格させ、部門内に「国際営業部」「国際企画戦略部」の2部を新設しました。

※新設組織を赤字で表示



■東映太秦映画村第1期リニューアルオープン時期の変更

2023年11月25日に発表した東映太秦映画村第1期リニューアルオープンの時期は、埋蔵文化財発掘調査の実施などの事情により、当初予定の2025年秋から2026年春に変更となりました。なお、温浴施設等を含む第2期以降のリニューアルオープン時期については、決まり次第リリースを出す予定です。

■経済産業省「中堅中小成長投資補助金」採択

映画村リニューアル・オープン事業において経済産業省の「中堅中小成長投資補助金」の交付が決定いたしました。

(参考HP) https://seichotoushi-hojo.jp/1_2ji/koufu/

■インバウンド施策

インバウンドを東映太秦映画村の成長ドライバーと考え、ナイトエコノミー需要を満たすナイトイベント「江戸酒場」、迫力のパルクールで没入感を味わえるショー「忍者エクストリーム・パーティー」、また海外でも話題となった「怪々yokai祭」など、インバウンドを意識した企画を充実させることによってリニューアルを機にさらなる収益向上を目指します。



(江戸酒場HP) <https://www.toei-eigamura.com/edosakaba/>



(NEP HP) <https://www.toei-eigamura.com/ninja-event/>

2025年3月19日（水）、長期保有株主優待として「東映東京撮影所見学ツアー」を実施いたしました。

〈実施レポート〉

当日は、日本最大級（※）のLEDウォールが設置されているバーチャルプロダクションスタジオ、人物の動きをキャプチャーしアニメ等に取り入れるモーションキャプチャスタジオ、またデジタルヒューマンを制作するライトステージのほか、撮影セットの見学を行いました。各スタジオでは、最新技術のプレゼンテーションのほか、撮影のデモンストレーションを行い、映像技術の進化を体感いただきました。

参加された株主の方々からは「蓄積された撮影技術と最新技術の融合」について、「東映ならではの体制である」との評価をいただきました。

今後も長期保有株主優待として、東京撮影所・京都撮影所のツアーや映画公開時の舞台挨拶のご招待、またグッズのプレゼントなどを行う予定です。詳細は今後の決算説明資料で発表してまいります。

※常設のLEDスタジオでは国内最大級（2025年5月時点）

〈今回の長期保有株主の条件〉

2024年9月30日を基準日とする当社株主名簿に、同一株主番号で3回以上連続して1単元（100株）以上の保有株式数が記載または記録された株主



中長期VISION「TOEI NEW WAVE 2033」全体像

To the World , To the Future

－「ものがたり」で世界と未来を彩る会社へ－

経営ビジョン2033

2026年で目指す姿

実写・アニメともにグローバルコンテンツの創造発信基盤を確立する

東映グループの強み

企画製作力

：

マルチユース展開

成長戦略

実写、アニメ映像事業を強化・拡大し、グローバル展開を加速する

重点施策

1 映像事業収益の最大化

1. 企画製作力の強化
2. コンテンツのマルチユース促進
3. IPライフサイクルの長期化

2 グローバル展開へのチャレンジ

1. グローバルメジャーと共同開発・世界展開
2. 現地企業とローカライズオリジナル作品の共同制作

3 映像事業強化のための人的投資の拡大

4 持続的なチャレンジと成長を支える経営基盤強化

- ① 事業基盤強化に向けた投資戦略
- ② コーポレートガバナンスの強化
- ③ サステナビリティへの取り組み
- ④ 資本・財務戦略

映画・テレビラインナップ

【映画】

- 2025年5月30日 『BADBOYS -THE MOVIE-』
- 2025年6月27日 『でっちあげ ～殺人教師と呼ばれた男』
- 2025年7月4日 『この夏の星を見る』
- 2025年7月25日 『仮面ライダーガヴ&ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー Wヒーロー夏映画2025』
- 2025年8月15日 『ChaO』
- 2025年9月公開 『Dear Stranger / ディア・ストレンジャー』
- 2025年9月12日 『映画キミとアイドルプリキュア♪』
- 2025年9月19日 『宝島』
- 2025年10月3日 『劇場版総集編 ガールズバンドクライ【前編】青春狂走曲』
- 11月14日 『劇場版総集編 ガールズバンドクライ【後編】なあ、未来。』
- 2025年10月24日 『ゾンビランドサガ ゆめぎんがパラダイス』
- 2025年11月14日 『港のひかり』
- 2025年12月5日 『ペリリュー-楽園のゲルニカ-』
- 2026年公開予定 『楽園追放心のレゾナンス』
- 公開待機作品 劇場版『僕の心のヤバイやつ』（仮）



【テレビ】

- 2024年9月1日～ 『仮面ライダーガヴ』（テレビ朝日系）
- 2025年2月16日～ 『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー』（テレビ朝日系）
- 2025年4月9日～ 『特捜9 final season』（テレビ朝日系）
- 2025年4月22日～ 『天久鷹央の推理カルテ』（テレビ朝日系）



【テレビアニメーション】

- 2024年10月5日～ 『科学×冒険サバイバル!』（NHK Eテレ）
- 2025年1月11日～ 『魔法つかいプリキュア!!～MIRAI DAYS～』（ABC・テレビ朝日系列）
- 2025年2月2日～ 『キミとアイドルプリキュア♪』（ABC・テレビ朝日系列）
- 2025年4月4日～ 『えぶりでいホスト』（テレビ東京系）
- 2025年4月6日～ 『ゲゲゲの鬼太郎 私の愛した歴代ゲゲゲ』（フジテレビ系）
- 2025年10月～ 『DIGIMON BEATBREAK』



配信・催事 ラインナップ

【配信】

2025年4月6日 『冥黒の黙示録 ラケシス』

2025年5月11日 『仮面ライダーマジェード
with ガールズリミックス』



【催事】

- ・『ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト』 2025年4月～ 静岡、愛知、広島ほか
- ・『仮面ライダー×スーパー戦隊 WヒーローSPRINGフェスタ！2025 in ラグーナテンボス』 2025年4月～ 愛知
- ・『ひつじのショーン展 with ウォレスとグルミット』 2025年5月～ 東京ほか
- ・『王様戦隊キングオージャー フィルム・コンサート』 2025年5月 東京
- ・『松本零士展 創作の旅路』 2025年6月～ 東京、福岡
- ・『超クウガ展』 2025年6月～ 東京、福岡、愛知、大阪
- ・『全スーパー戦隊展』 2025年8月～ 東京ほか

【ショー・舞台】

- ・『SOLO Performance ENGEKI 「MAGENTA」』 2025年4月～ 東京、愛知、福岡、大阪



【商品】

- ・仮面ライダーストア ポップアップストア 2025年5月～ 海外：香港 国内：北海道、宮城、大阪、広島、鹿児島



本資料について

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれていますが、実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承下さい。

また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問合せ
東映株式会社 経営戦略部広報室
MAIL : keisen_koho@toei.co.jp
担当 : 内藤 篠崎 奥本 加藤

©2025 「でっちあげ」製作委員会 ©2025 「35年目のラブレター」製作委員会 ©2024 「帰ってきたあぶない刑事」製作委員会 ©2024 わんだふるぶりきゅあ!ざ・むーびー!製作委員会 ©2025 「ChaO」製作委員会 ©武田一義・白泉社/2025 「ペリリュー ー楽園のゲルニカー」製作委員会 ©東映アニメーション ©ゾンビランドサガ製作委員会 ©東映アニメーション・ニトロプラス/楽園追放サイエティ2 ©桜井のりお(秋田書店)/僕ヤバ製作委員会 ©1961 山崎豊子/新潮社 ©テレビ朝日・東映 ©石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映 ©東映・東映ビデオ・石森プロ ©石森プロ・東映 ©AiiA Corporation ©柴田ヨクサル/ヒーローズ・Tojima Rider Project ©石森プロ・東映 ©テレビ朝日・東映AG・東映 ©石森プロ・東映 ©映画「鬼太郎誕生ゲゲゲの謎」製作委員会 ©Roji Films, TOEI COMPANY, LTD. ©2024 石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映 ©2024 「十一人の賊軍」製作委員会 ©テレビ朝日・東映 ©石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映 ©I.T.PLANNING, INC. ©2022 THE FIRST SLAM DUNK Film Partners ©赤坂アカ×横槍メンゴ/集英社・2024 映画【推しの子】製作委員会 ©田中宏・少年画報社/映画「BADBOYS」製作委員会 ©真藤順丈/講談社 ©2025 「宝島」製作委員会 ©2025 テレビ朝日・東映 ©知念実希人・いとうのいぢ/ストレートエッジ/テレビ朝日・東映 ©Gomdori.co., Kim Jeung-Wook, Han Hyun-Dong/Mirae N./Ludens Media/朝日新聞出版/NHK・NEP・東映アニメーション ©2025 魔法つかいプリキュア!!～MIRAI DAYS～製作委員会 ©ABC-A・東映アニメーション ©ごとうにも/えぶりでいホスト製作委員会 ©水木プロ・東映アニメーション ©本郷あきよし・東映アニメーション ©東映特撮ファンクラブ ©2023 石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映 Photo: Brooklyn Museum ©石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映AG・東映 ©&™ AARDMAN ANIMATIONS LTD 2025. ALL RIGHTS RESERVED. ©&™ AARDMAN ANIMATIONS LTD/WALLACE&GROMIT LTD 2025. ALL RIGHTS RESERVED. ©松本零士/零時社 ©テレビ朝日・東映AG・東映 ©東映 ©石森プロ・東映 ©Marvel Characters, Inc. All Rights Reserved ©東映